

資料・写真協力者及び提供者一覧（五十音順、敬称略）

○公共団体

諫早市立諫早図書館郷土史料室、宇土市教育委員会、大阪城天守閣、大阪府立中之島図書館、大村市立史料館、川棚町教育委員会、甲州市教育委員会、高知県立坂本龍馬記念館、国立公文書館、国立歴史民俗博物館、西海市大瀬戸歴史民俗資料館、西海市教育委員会、佐賀県立名護屋城博物館、仙北市教育委員会、長崎県教育庁学芸文化課、長崎県消防学校、長崎大学附属図書館経済学部分館、長崎歴史文化博物館、波佐見町教育委員会、浜田市教育委員会、浜田市浜田郷土資料館、浜田市立中央図書館、東彼杵町教育委員会、平戸市生月町博物館・島の館、広島県立文書館、輪島市教育委員会

○神社・寺院

雲龍寺、正法寺、彼杵神社、東前寺、富松神社、本経寺、本受寺、本清寺、妙宣寺

○出版社

株式会社 塙書房、株式会社 吉川弘文館、法政大学出版局、有限会社 エスケイ・アイ・コーポレーション 出版部・芸文堂

○一般

株式会社 サタマツ、公益財団法人鍋島報效会、神宮文庫、天理大学附属天理図書館、長野郷土史研究会、微神堂道場、相川 浩、故・安部 健児、安部 登美子、一瀬 幸子、一瀬 義典、伊藤 節子、一釣 正吉、浦上 正明、大西 正晴、嘉数 次人、川崎 正康、酒井 一輔、清水 邦行、砂上 正夫、田中 裕介、富川 敦子、中林 保、長浜 和男、藤崎 功、松添 君子、峯 知則、宮崎賢太郎、宮野 正、矢羽 勝幸、山下 和秀、吉村 昌子

○編集協力者

大村市教育委員会

編さん関係者名簿（順不同・敬称略）

平成二十七年一月現在

○大村市史編さん委員会委員

委員長 吉野 哲 大村市副市長
副委員長 田中 誠 大村市元助役
委員
有識者

後藤惠之輔 長崎大学名誉教授
脇田 安大 公益財団法人ながさき地域政策
研究所理事
高塚かず子 長崎県教育委員会元委員長
福田 年子 長崎県立川棚高等学校元教頭
松尾 洋子 大村市教育委員会委員
船橋 修一 九州教具株式会社代表取締役社長
黒田 哲夫 大村市教育委員会教育長

専門家

藤野 保 中央大学元教授
清水 紘一 中央大学元教授
満井 録郎 長崎県立大村高等学校元校長
梅田 和郎 長崎県立美術博物館元館長
久田松和則 大村市文化財審議会会長（富松

○大村市史編集委員会委員

委員長 藤野 保 中央大学元教授
副委員長 久田松和則 大村市文化財審議会会長（富松
神社宮司）
委員
松岡 數充 長崎大学名誉教授
阪口 和則 長崎県立大村高等学校元教諭
宮崎 正隆 長崎県立諫早高等学校元教諭
秀島 貞康 諫早市教育委員会文化課元参事
満井 録郎 長崎県立大村高等学校元校長
大石 一久 長崎歴史文化博物館元研究ク
ループリーダー
清水 紘一 中央大学元教授
五野井隆史 東京大学名誉教授
半田 隆夫 福岡女学院大学生涯学習セン
ター講師
柴多 一雄 長崎大学経済学部教授

神社宮司）

大石 一久 長崎歴史文化博物館元研究ク
ループリーダー

委員 藤野 保 中央大学元教授

副委員長 久田松和則 大村市文化財審議会会長（富松
神社宮司）

委員 松岡 數充 長崎大学名誉教授

阪口 和則 長崎県立大村高等学校元教諭

宮崎 正隆 長崎県立諫早高等学校元教諭

秀島 貞康 諫早市教育委員会文化課元参事

満井 録郎 長崎県立大村高等学校元校長

大石 一久 長崎歴史文化博物館元研究ク
ループリーダー

清水 紘一 中央大学元教授

五野井隆史 東京大学名誉教授

半田 隆夫 福岡女学院大学生涯学習セン
ター講師

柴多 一雄 長崎大学経済学部教授

○第三卷 専門部会

近世部会

部会長

委員

- | | |
|-------|---------------------------|
| 高野 信治 | 九州大学大学院比較社会文化研究
院教授 |
| 田中 誠 | 大村市元助役 |
| 梅田 和郎 | 長崎県立美術館元館長 |
| 杉谷 昭 | 佐賀大学名誉教授 |
| 長野 暹 | 佐賀大学名誉教授 |
| 藤野 保 | 中央大学元教授 |
| 久田松和則 | 大村市文化財審議会会長(富松
神社宮司) |
| 清水 紘一 | 中央大学元教授 |
| 五野井隆史 | 東京大学名誉教授 |
| 大石 一久 | 長崎歴史文化博物館元研究ク
ルーブリーダー |
| 半田 隆夫 | 福岡女学院大学生涯学習セン
ター講師 |
| 柴多 一雄 | 長崎大学経済学部教授 |
| 高野 信治 | 九州大学大学院比較社会文化研
究院教授 |
| 野口 朋隆 | 昭和女子大学人間文化学部歴史
文化学科准教授 |

○第三卷 執筆者

近世編

- | | |
|-------|--------------------------|
| 中園 成生 | 平戸市生月町博物館・島の館学
芸員 |
| 中野 雄二 | 波佐見町教育委員会文化財保護
係学芸員 |
| 吉田 洋一 | 久留米大学文学部国際文化学科
准教授 |
| 平岡 隆二 | 熊本県立大学文学部日本語日本
文学科准教授 |
| 藤野 保 | 中央大学元教授 |
| 久田松和則 | 大村市文化財審議会会長(富松
神社宮司) |
| 清水 紘一 | 中央大学元教授 |
| 五野井隆史 | 東京大学名誉教授 |
| 大石 一久 | 長崎歴史文化博物館元研究ク
ルーブリーダー |
| 半田 隆夫 | 福岡女学院大学生涯学習セン
ター講師 |
| 柴多 一雄 | 長崎大学経済学部教授 |
| 高野 信治 | 九州大学大学院比較社会文化研
究院教授 |

野口 朋隆 昭和女子大学人間文化学部歴史

文化学科准教授

中園 成生 平戸市生月町博物館・島の館学

芸員

中野 雄一 波佐見町教育委員会文化財保護

係学芸員

吉田 洋一 久留米大学文学部国際文化学科

准教授

平岡 隆一 熊本県立大学文学部日本語日本

文学科准教授

後藤恵之輔 長崎大学名誉教授

今村 明 大村市教育委員会文化振興課係

長(学芸員)

山下 和秀 大村市教育委員会文化振興課学

芸員

盛山 隆行 大村市市史編さん室嘱託員

○監修者

全巻

久田松和則 大村市文化財審議会会長(富松

神社宮司)

柴多 一雄 長崎大学経済学部教授

第三巻(近世編)

柴多 一雄 長崎大学経済学部教授

○大村市 市史編さん室

室長 大野 安生

係長 鈴木 伸之

嘱託 盛山 隆行 第三巻担当

佐原 貴子 第三巻副担当

宮本 由香 課内事務、図版・表作成、資料

掲載・転載確認担当

本「近世編」は、全五巻より構成される『新編大村市史』のうち、第二巻「中世編」に次いで第三巻の位置を占める。

「近世編」については、五十年前に執筆・刊行した初回の『大村市史』（上下二巻）の「上巻」で叙述したが、最初の試みであり、かつ単独執筆と時間の制約から不備を免れなかった。しかし、当時の市域を対象とせず、旧大村藩領東西彼杵郡（四八ヶ村）を対象に執筆し、かつ本文と史料を併記・叙述したことから、両郡における自治体史（町村史）編さんのスタンダードとなった。

全国为例が示すように、自治体史の中心は「近世編」にある。その理由は古代・中世より史料が多く、近現代史研究に比較して、戦前より研究が進んでいたことによる。それは全国における研究者の郷土に対する敬意と愛着の現れであり、「大村」も例外ではない。とくにキリシタンや石造文化といった個別のテーマについては、著しい研究の進展がみられたが、大村藩の体系的研究については、なお旧『大村市史』（上巻）の研究段階に留まっていた。

ところが、大村藩の基本史料である「郷村記」（『大村郷村記』全六巻）・「見聞集」（『大村見聞集』全一卷）・『九葉実録』（全五巻・別冊一卷）が復刻・刊行されることによって、著しく研究が進展し、これを契機に、郷土雑誌『大村史談』に数多くの論文が発表された。そうした成果のうえに、今回は単独執筆から各テ

まごとに一七名の執筆者を選定し、研究目標の設定・意思統一・執筆要項など、頻繁に編集会議を開催し、その成果にもとづいて、近世部会長が整理・統括した。

本「近世編」は、当該地域（＝藩）のあらゆる分野・テーマについて、総合的・体系的研究・叙述を意図すると同時に、広い視野から比較研究の視覚を導入し、統一権力である幕府はいうまでもなく、国内の政治情勢、とくに隣接する地域（＝藩）における雄藩・中小藩との比較研究を通じて、大村藩の特質と個性を描き出すとともに、国際環境の変化に連動させながら、明治維新への道程を明らかにし、近代国家形成の歴史的前提を説明するという、自治体史の新たな視覚と方法を提示した。

平成二十七年三月

近世部会長 藤野 保

新編 大村市史 第三卷 近世編

平成二十七年三月三十一日 発行

編集 大村市史編さん委員会
発行 大村市

〒八五六―八六八六

長崎県大村市玖島一丁目二五番地

電話 ○九五七―五三一四一一(代表)

株式会社 ぎょうせい

〒一三六―八五七五

東京都江東区新木場二丁目一八―二

電話 ○三一六八九二―六六六六

株式会社 つじ印刷

〒八五六―〇〇三三

長崎県大村市荒平町一四七二―一

電話 ○九五七―五二―三三三〇

印刷

